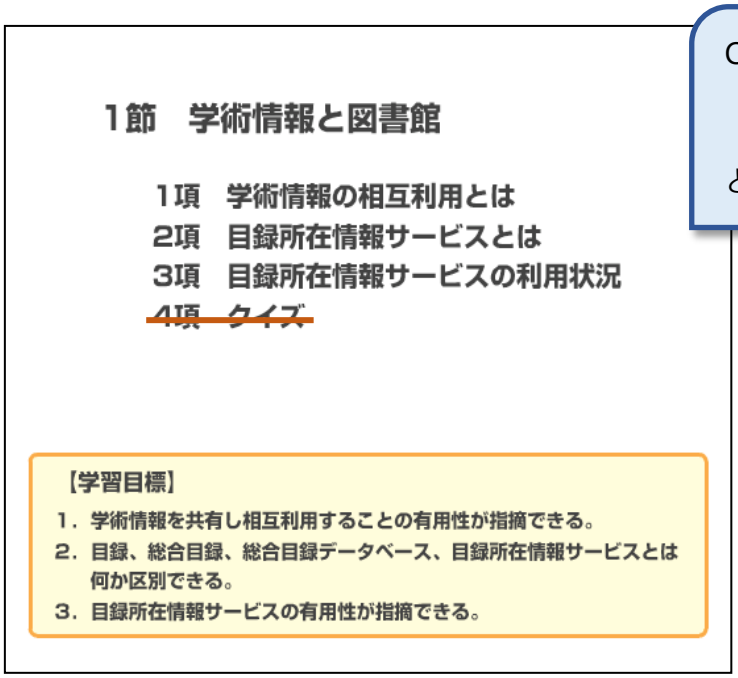
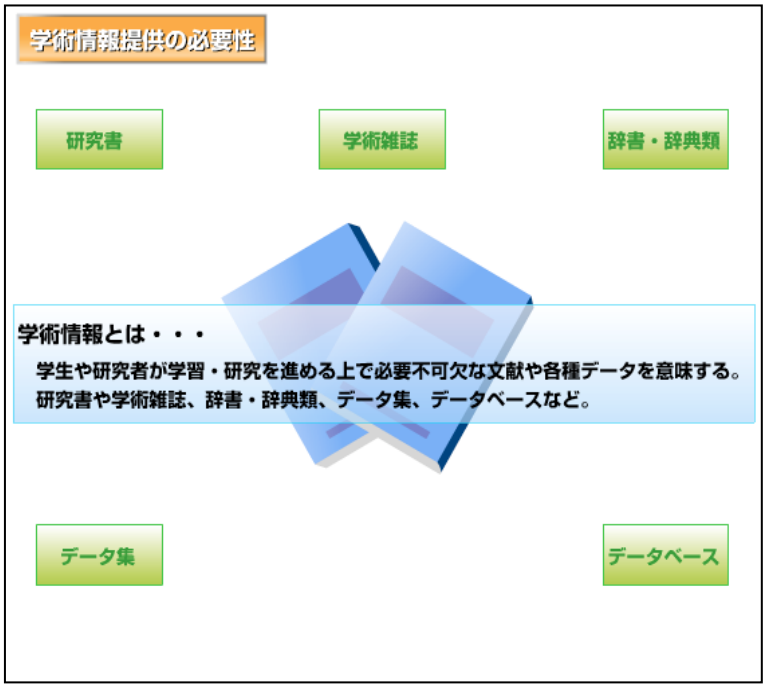
1節　学術情報と図書館



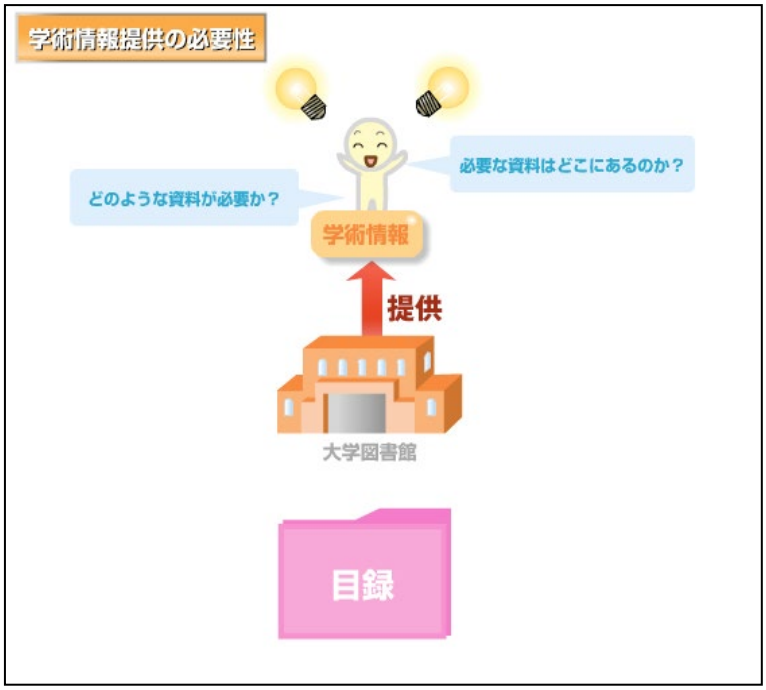
CAT2020 運用開始以降は、
　レコード ⇒ データ
　ファイル ⇒ データセット
と読み替えてください。

1 項　学術情報の相互利用とは

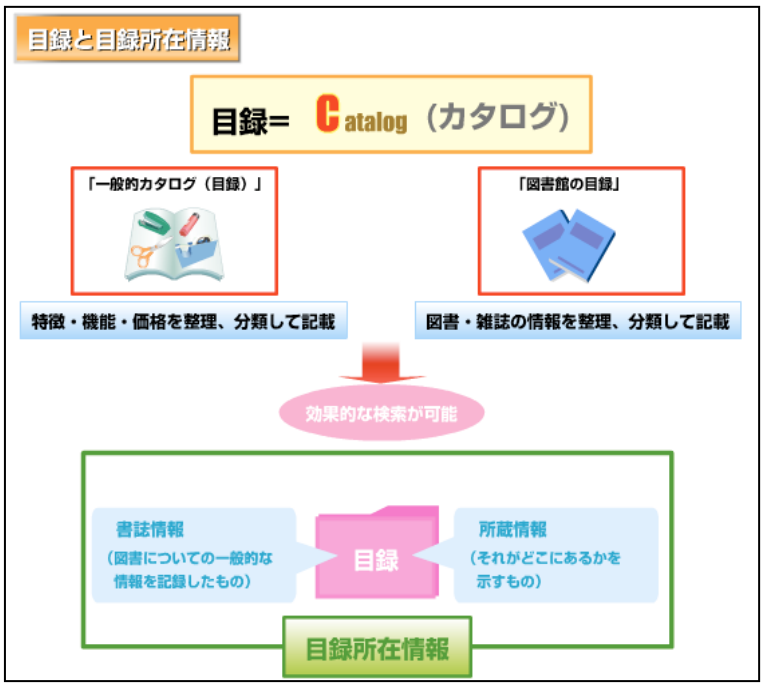


学術情報とは、学生や研究者が学習・研究を進める上で必要不可欠な文献や各種データを意味します。具体的には、研究書や学術雑誌、辞書・辞典類、データ集、データベースなどがあります。

1節　学術情報と図書館



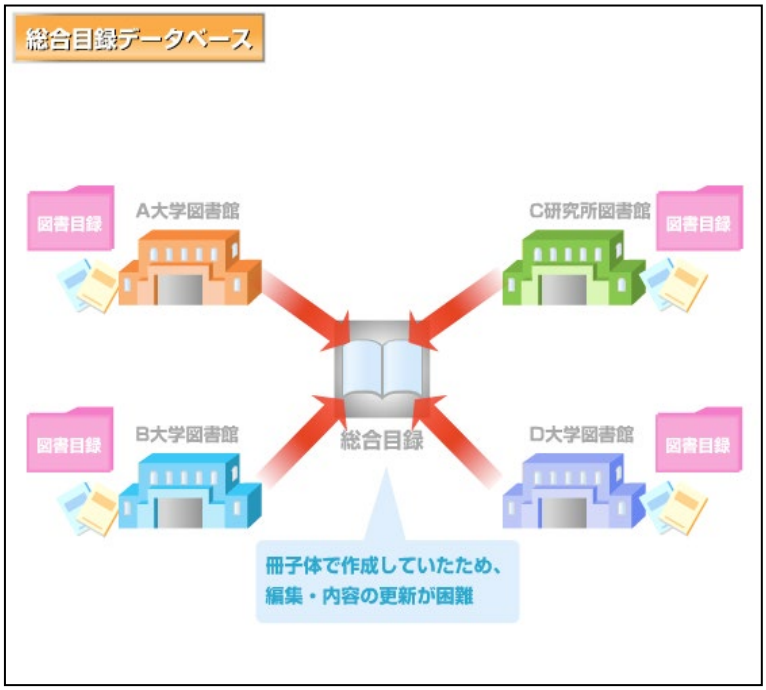
大学等の図書館は、この学術情報を学生や研究者に提供する機能をもっています。
そして学術情報を効率的に利用できるように、「目録」を作成しているのです。



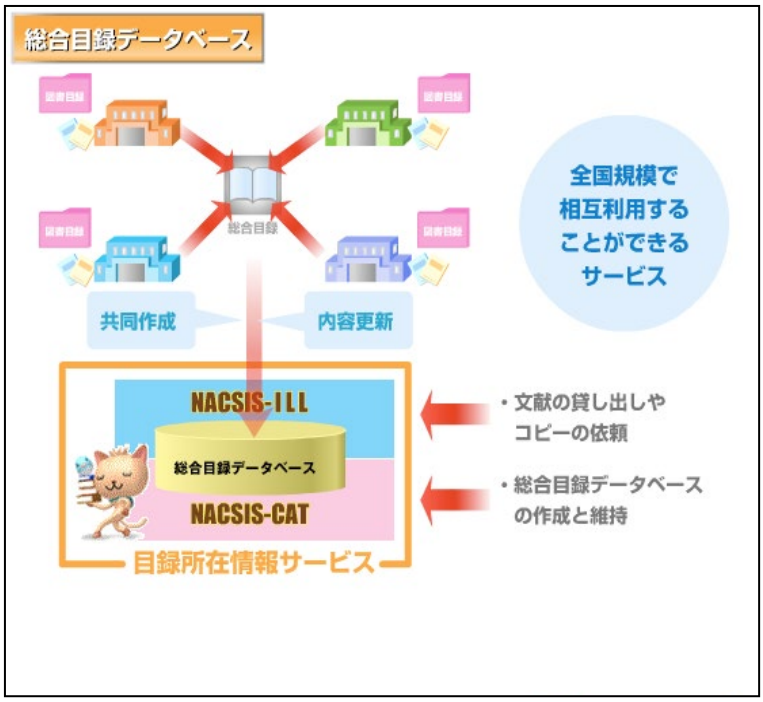
目録とは、英語でいうカタログのことです。カタログは、商品などの特徴、機能、価格などを整理・分類して記載するとともに、索引から引くことができるようにしています。図書館の目録も同様に、図書館がもつ図書や雑誌の情報を整理・分類して、効率的に検索できるようにしたものなのです。
この目録は通常、図書そのものに関する情報である書誌情報と、それがどこにあるかという所蔵情報からなっています。これをまた「目録所在情報」ということもあります。

1節　学術情報と図書館

2項　目録所在情報サービスとは

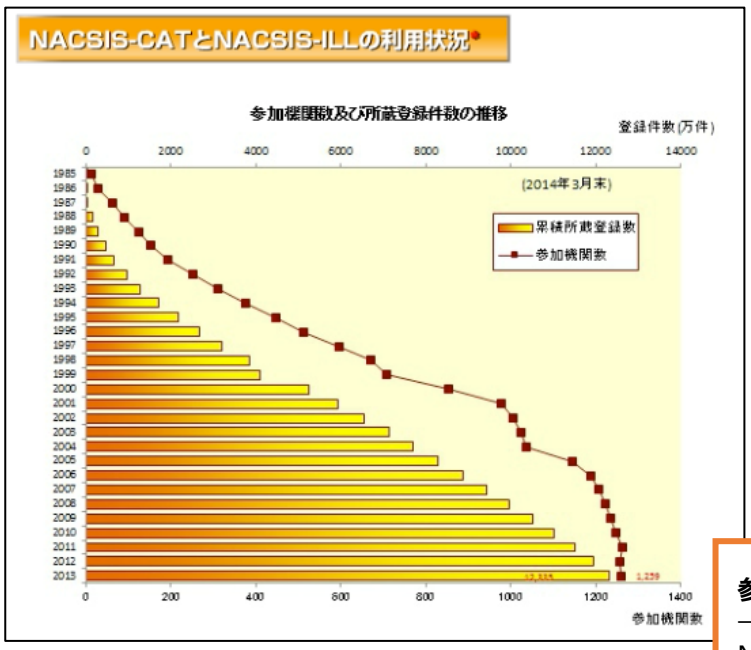


従来、それぞれの図書館では、個別に目録を作成していました。それぞれの図書館の蔵書を補い合うために、複数の図書館の目録と所蔵情報をまとめて編集したのが「総合目録」です。
以前は冊子体で作成していたため、編集も内容の更新も、非常に困難でした。



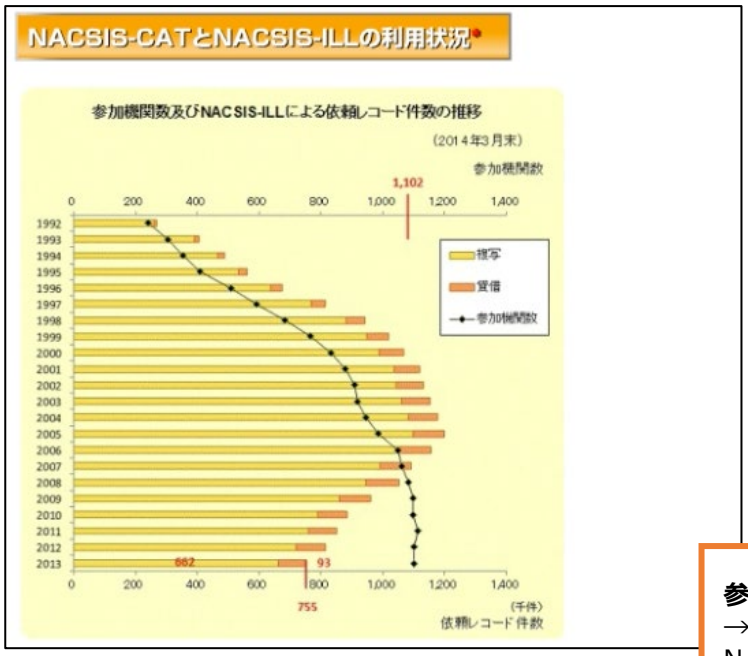
しかし現在は、全国規模のオンラインシステムでデータベースを共同作成し、日々、内容の更新を行っています。
これが「総合目録データベース」であり、総合目録データベースを利用したサービス全般を「目録所在情報サービス」といいます。
そしてこのサービスを支えるシステムが NACSIS-CAT と NACSIS-ILL なのです。
目録所在情報サービスでは、総合目録データベースを作成するだけではなく、その目録に収録された所在情報から、文献の貸し出しやコピーの依頼をすることができるようになっています。
いわば、日本の大学図書館の学術情報を共有資産として、全国規模で相互利用することができるようにしたサービスなのです。

3 項　目録所在情報サービスの利用状況



目録所在情報サービスを形成する NACSIS-CAT と NACSIS-ILL の利用状況を見てみましょう。
まず、NACSIS-CAT の利用状況を見てみましょう。
目録所在情報サービスは、1984 年に開始しました。その後の NACSIS-CAT の参加機関数、所蔵登録件数はグラフのように増加しています。

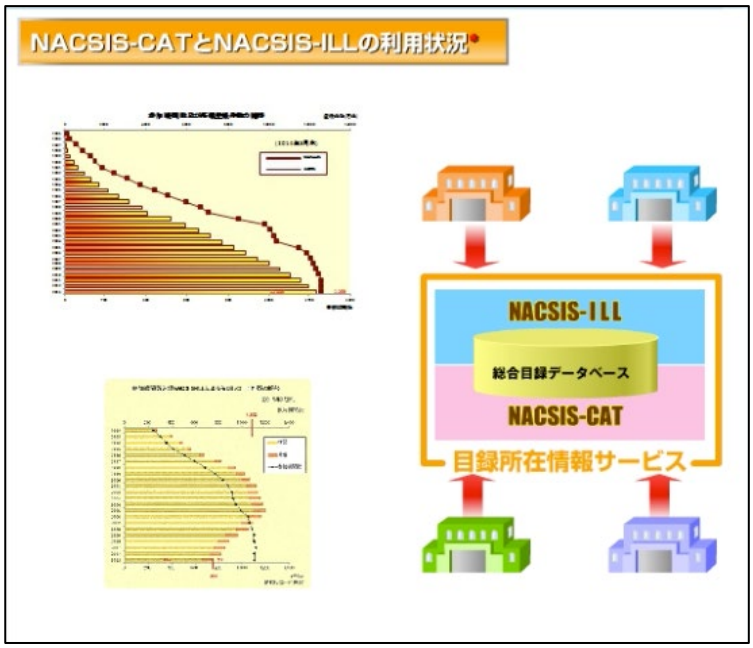
参加機関数・所蔵登録件数
→目録所在情報サービスホームページ
NACSIS-CAT 統計情報



また、NACSIS-ILL の参加機関数、相互利用依頼レコード件数もグラフのように増加しています。
このように、目録所在情報サービスは年々利用拡大していることがわかります。

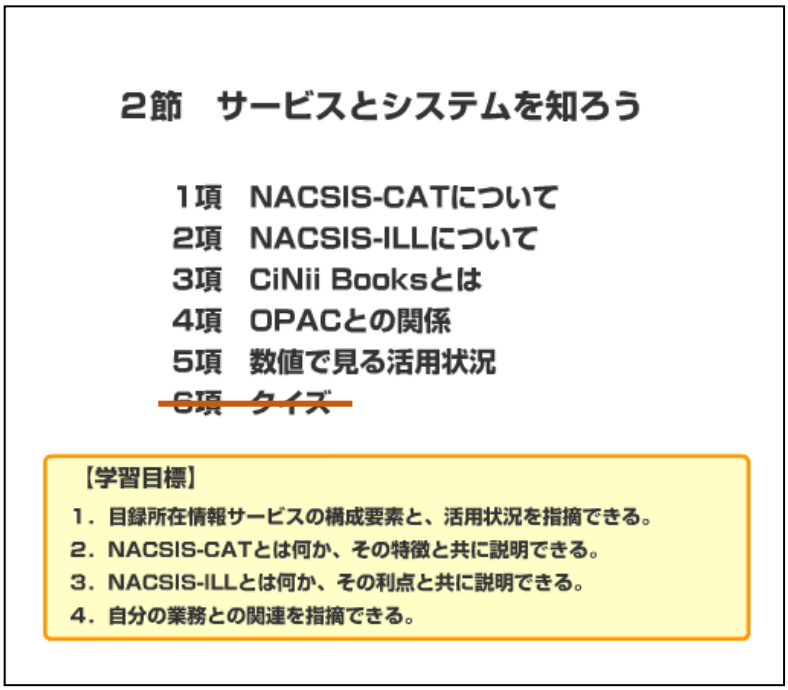
参加期間数・所蔵登録件数
→目録所在情報サービスホームページ
NACSIS-ILL 統計情報

1節　学術情報と図書館



次の節では、目録所在情報サービスを支えるNACSIS-CAT、NACSIS-ILL それぞれについて、そのシステム内容を順に見ていきましょう。

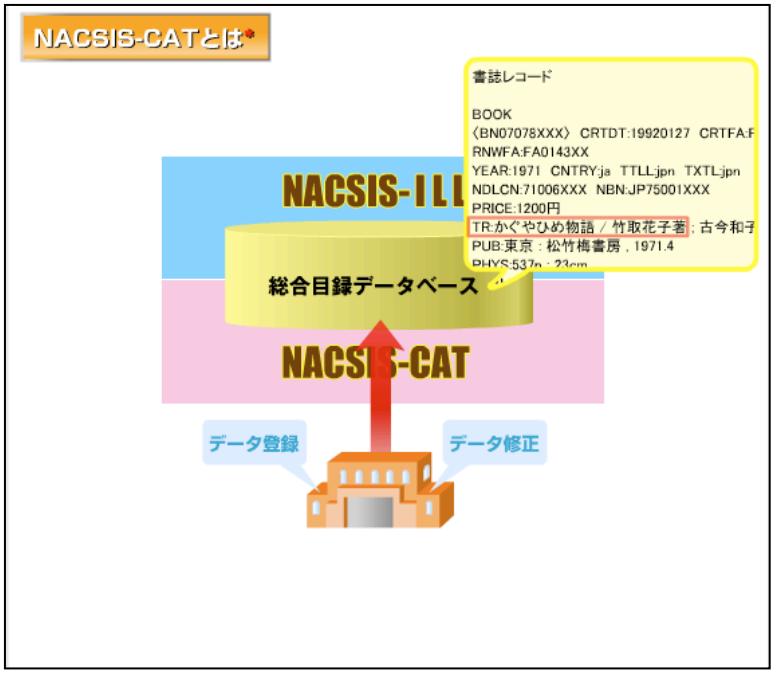
2節　サービスとシステムを知ろう



1項　NACSIS-CAT について

NACSIS-CAT とは、総合目録データベースを形成維持するための目録システムです。

2節　サービスとシステムを知ろう



すなわち、総合目録データベースに対して、データの登録や修正を行うためのシステムなのです。

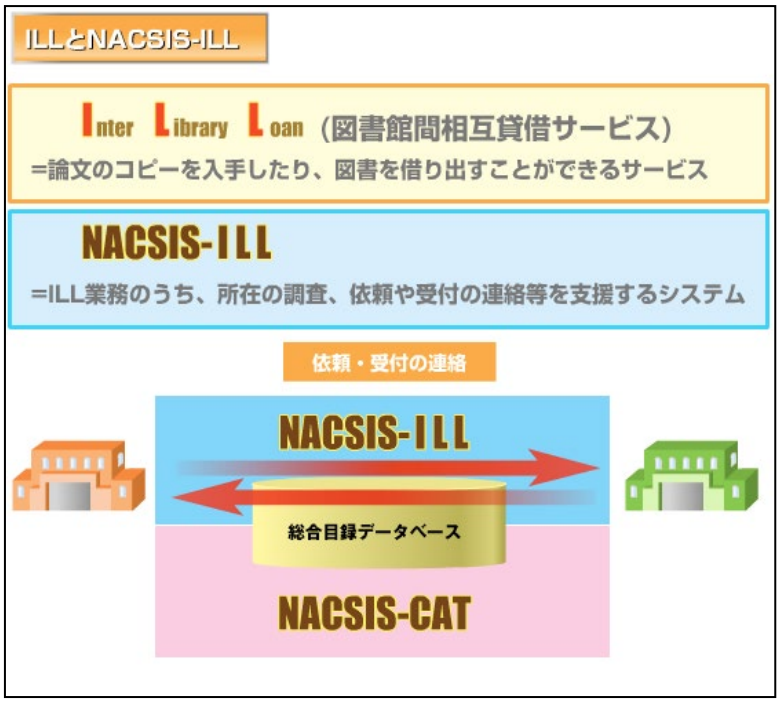
総合目録データベースは、参加館が連携、分担して目録データを作成し、活用していく仕組みをとっています。
これを共同分担入力方式といいます。共同で分担入力をすることによって各館で同じ内容の目録を作成するなどの重複作業を防ぎ、目録作成を効率的に行うと同時に業務の負担を軽減しています。

2節　サービスとシステムを知ろう

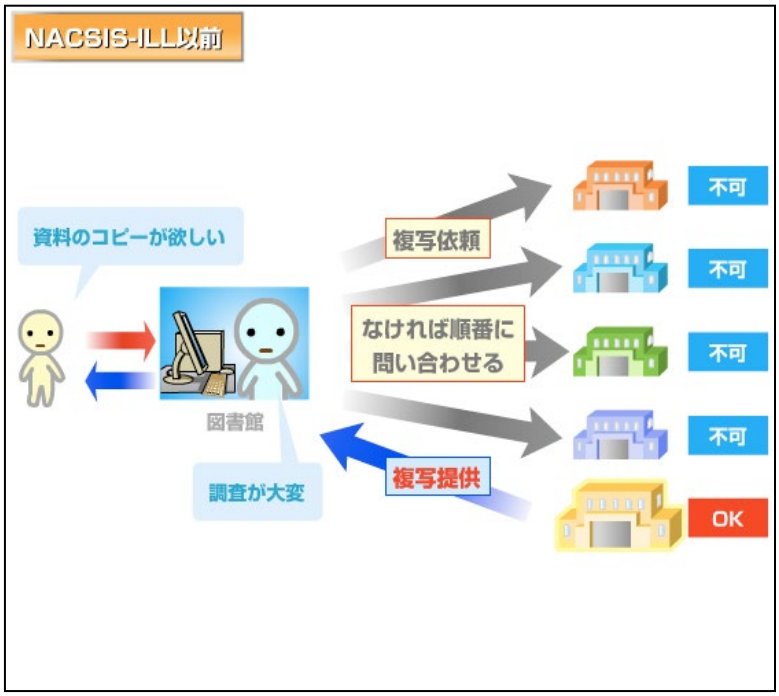
たとえば、3つの図書館で同じ「こころ」(夏目漱石著)という資料を持っているとき、書誌情報の登録は1つの図書館だけが行います。

そして書誌情報が登録されていれば、他の図書館は所蔵情報の登録を行うだけでよいのです。
このように、共同分担入力方式をとることにより、各図書館での目録作成業務は非常に省力化することができます。

2項　NACSIS-ILL について

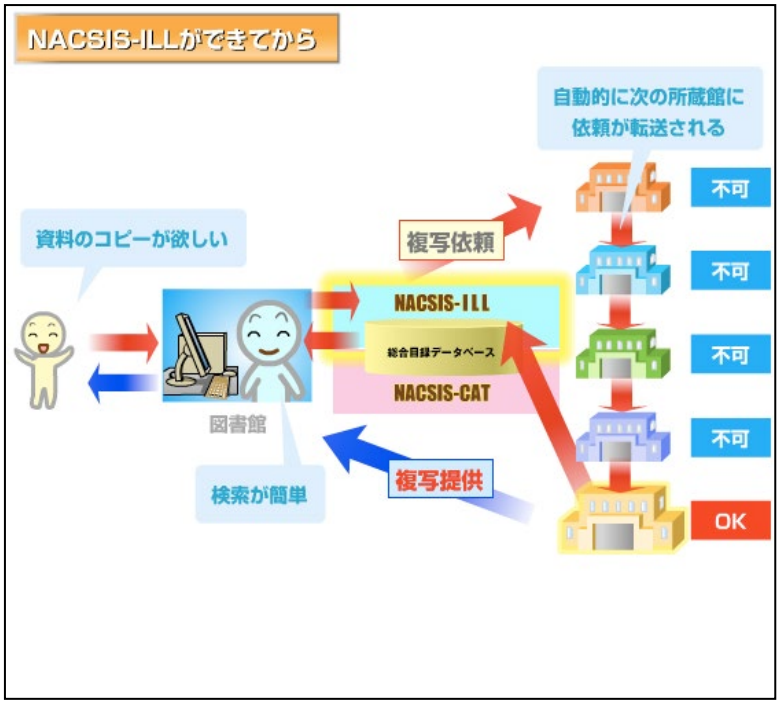


ILL とは、図書館間相互貸借サービス（Inter Library Loan）の略称で、論文のコピーを入手したり、図書を借り出すことができるサービスです。
そして NACSIS-ILL システムは、ILL 業務の中で所在を調べたり、依頼や受付の連絡等を支援するものです。

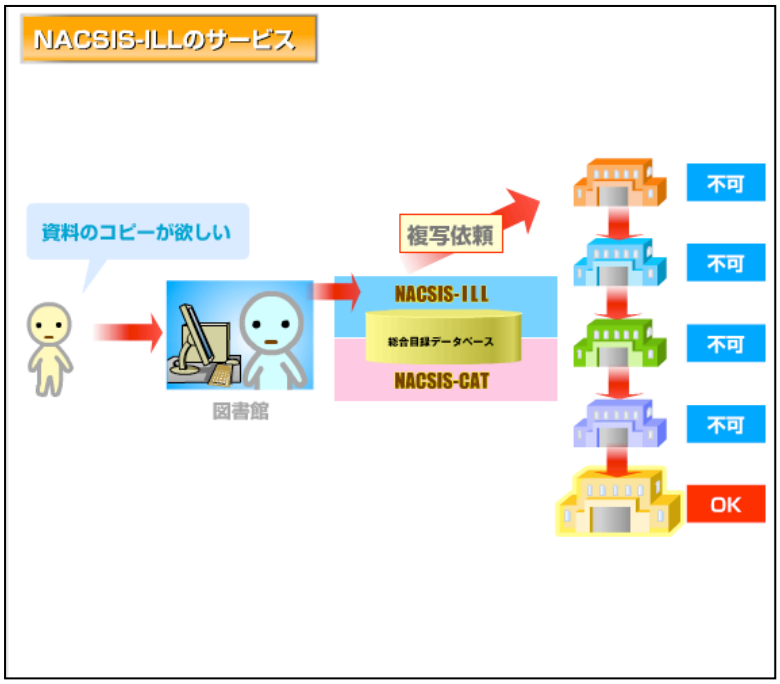


NACSIS-ILL が運用開始する前は、所蔵している図書館を調べることが大変でした。そして、所蔵館が見つかってからも、郵送で依頼したり、状況により相互利用できない場合は、別の所蔵館にあらためて依頼するなどの手続きが必要でした。

2節　サービスとシステムを知ろう

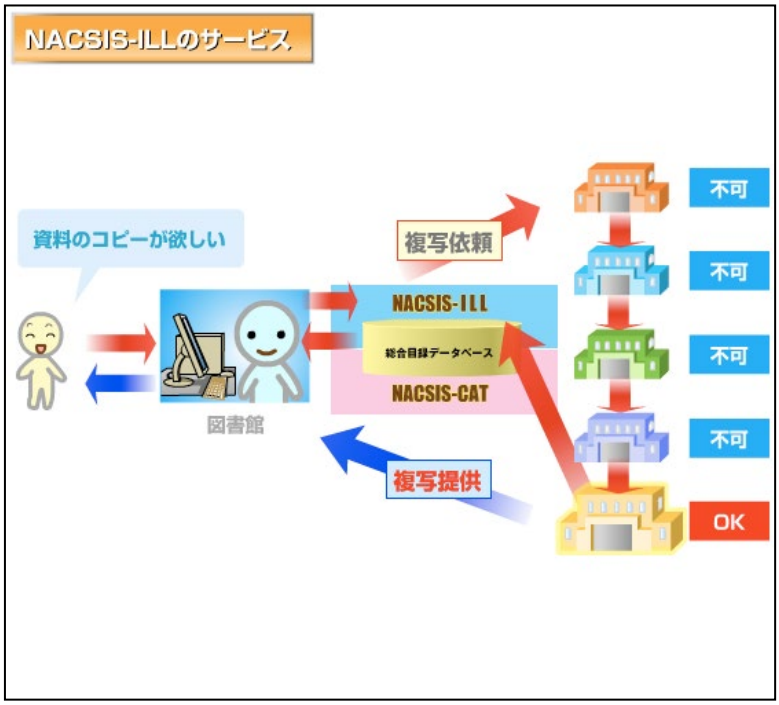


NACSIS-ILLを使うと、所蔵館の検索が簡単で、複数の所蔵館にオンラインで依頼することができます。依頼を受けた所蔵館が対応できない場合は、自動的に次の所蔵館に依頼が転送されます。
このように、NACSIS-ILLにより、相互貸借サービスが格段に迅速化したのです。
NACSIS-ILLは、総合目録データベースが基盤になっています。NACSIS-CATによってデータベースが維持されているからこそ、ILLで円滑な相互貸借サービスが行えるのです。

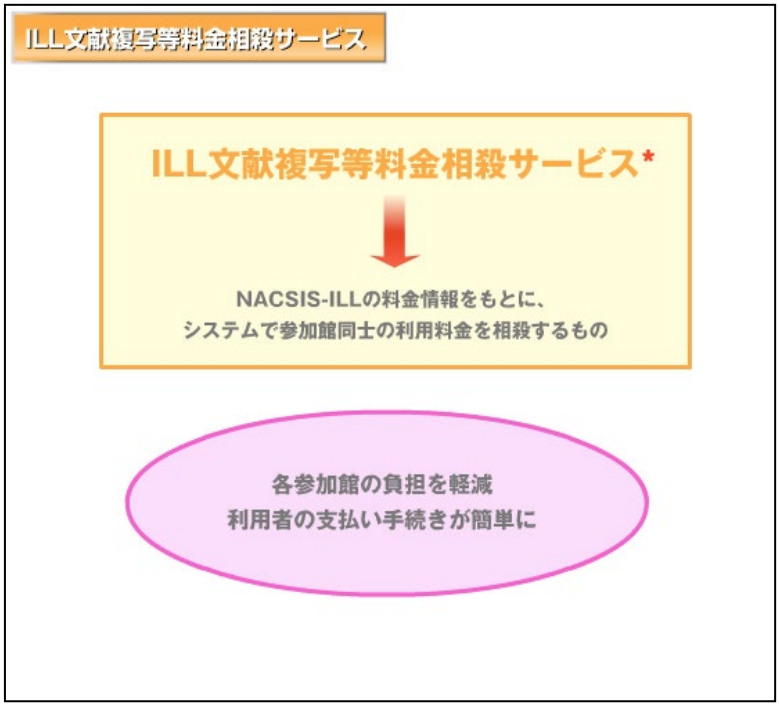


NACSIS－ILLについてまとめてみましょう。
利用者は自分が使っている図書館から他の図書館にある資料を借りたり、コピーを取り寄せたりすることができます。
その背景には NACSIS-ILL があって、依頼や受付等のサービス支援をしています。

2節　サービスとシステムを知ろう

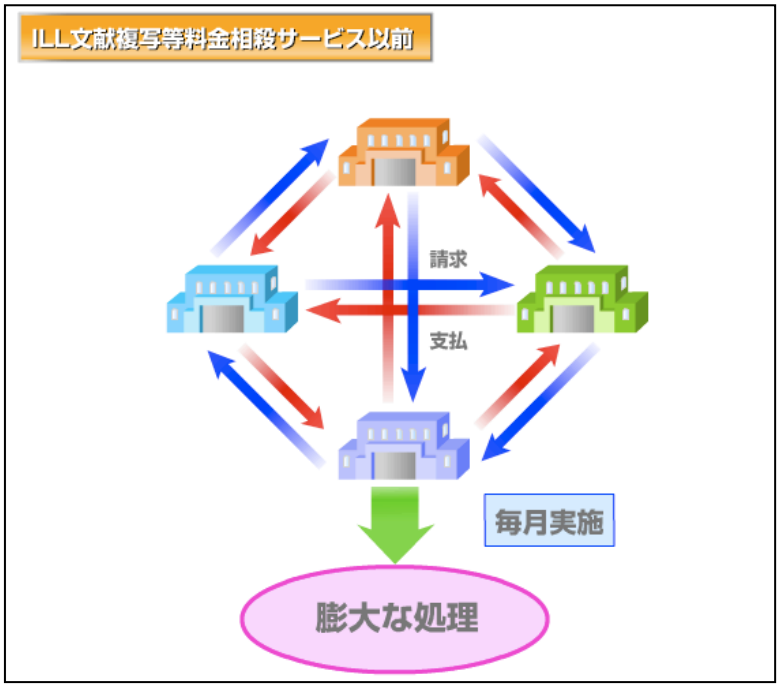


コピーの例で説明します。まず、コピーしたいという申込みを受けます。
申込みを受けた図書館はNACSIS-ILL から総合目録データベースを検索し、依頼をかけます。
NACSIS-ILL から資料を持っている図書館に依頼が届き、受け付けられたとします。
受付館ではコピーを郵送し、コピーの発送をNACSIS-ILLに通知します。発送の通知は、依頼館からNACSIS-ILL に対して確認することができます。
コピーが届くと図書館から申込み者に渡されることになります。

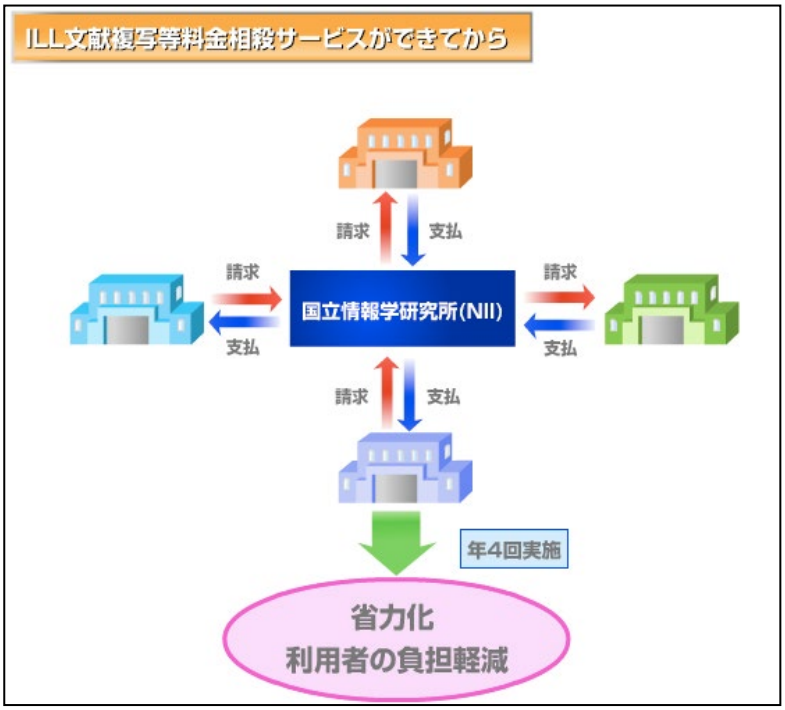


ILLサービスにより発生した、ILL参加館相互の料金決済事務を簡素化するのが、ILL文献複写等料金相殺サービスです。NACSIS-ILLの料金情報をもとに、システムで参加館同士の利用料金を相殺するもので、各参加館の負担を軽減し、利用者の支払い手続きを簡単にしました。

2節　サービスとシステムを知ろう



この ILL 文献複写等料金相殺サービスが始まる前には、依頼・受付それぞれの参加館同士で、請求・支払いの処理を毎月行っていました。依頼・受付の実績のある参加館が増えれば増えるほど、処理は膨大なものとなっていきます。



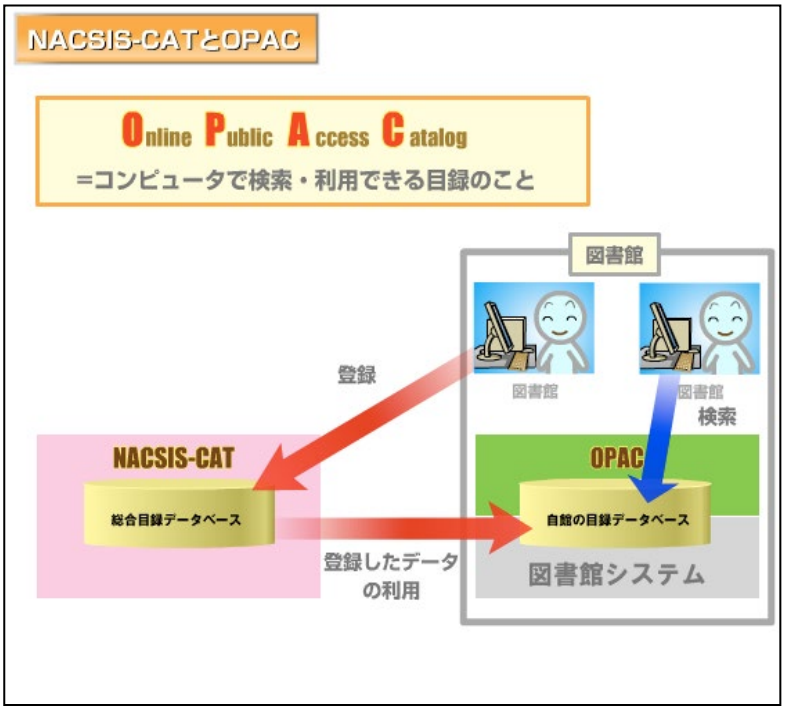
ILL 文献複写等料金相殺サービスでは、NACSIS-ILL システムでの処理全体の中で料金を相殺するため、参加館はその差額を決算するだけとなります。受付より依頼が多かった場合は、参加館が国立情報学研究所に支払い、受付が多かった場合は、参加館が支払いを受けます。
この処理を年 4 回行うだけで、非常に大きな省力化になると同時に利用者の負担も軽減されます。

2節　サービスとシステムを知ろう

3項　CiNii Books とは

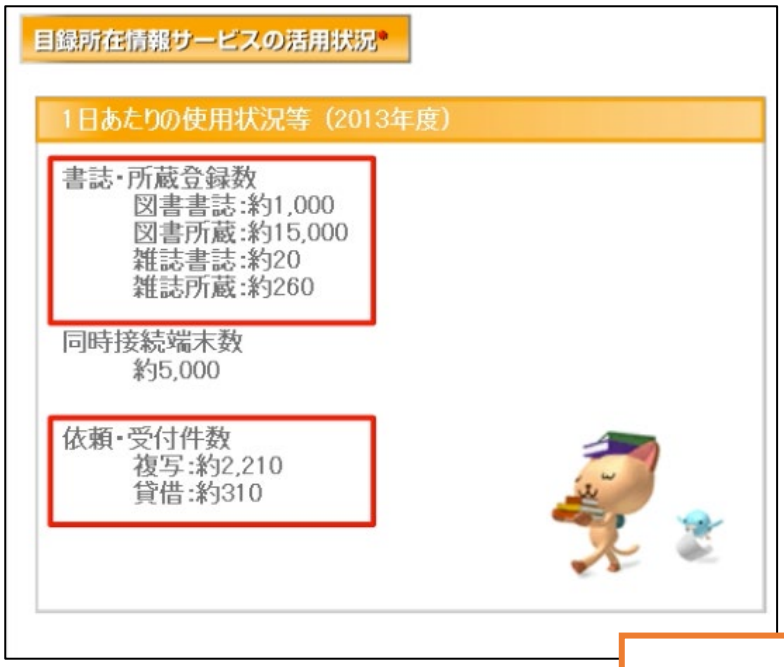
NACSIS-CAT を利用している図書館は、総合目録データベースの形成に寄与する一方、自館の利用者向けの図書館目録データベースを作り公開しています。
利用者が検索することができる目録を OPAC といいます。これは、「Online Public Access Catalog」の略称で、多くの図書館では総合目録データベースの書誌情報を利用して、効率的に OPAC を作成しているのです。

4項　OPAC との関係



目録所在情報サービスの活用状況を、統計で見てみましょう。
NACSIS-CAT では、このように書誌情報・所蔵情報が登録されています。
また NACSIS-ILL では、このような依頼・受付件数となっています。
多くの参加館が協力していくことで、より豊かなデータベースに成長し、各参加館の負担も少なくなっていきます。

5項　数値で見る活用状況



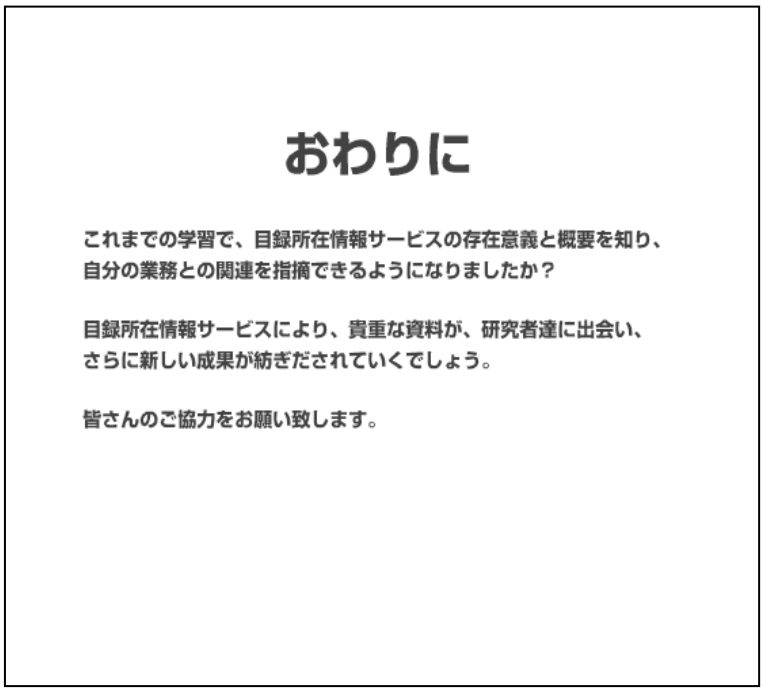
総合目録データベースは、NACSIS-CAT や NACSIS-ILL のような図書館業務に利用されるだけではありません。

CiNii Books は、ウェブにより誰でも 24 時間、無料で利用できる検索サービスです。

大学図書館等でもっている学術情報を広く社会に公開するという役割を、実現したサービスとなっています。

平日１日あたりの登録状況
→目録所在情報サービスホームページ
NACSIS-CAT 統計情報

おわりに



これまでの学習で、目録所在情報サービスの存在意義と概要を知り、自分の業務との関連を指摘できるようになりましたか？
目録所在情報サービスにより、貴重な資料が、研究者達に出会い、さらに新しい成果が紡ぎだされていくでしょう。
皆さんのご協力をお願い致します。